

平成 30 年度 海洋スポーツセンター事業報告書

海洋スポーツセンター長 中村 夏実

I. 主に取り組んだ事業（特記事項）

1. 海洋スポーツの普及を目的に、平成 29 年度の満足度調査をふまえ、関連公開講座 4 件、学長杯オープンヨットレースを開催した。
2. 地域振興を目的に、地域海洋スポーツ関連事業に協力した。
3. 各事業において参加者数と満足度を調査し、地域ニーズを把握した。
4. セーリング競技等における競技力向上に関する合宿を開催した。
5. 協力者会議を開催し、年度を総括するとともに、海洋スポーツ研究第 24 号を発刊した。

II. 事業報告

1. 教育（授業に関するものを除く）プロジェクト

（1）海洋スポーツ活動のための指導者育成

（主担当：中村、海野／2 月 16 日・17 日開催／参加学生：6 名）

継続事業として、海洋スポーツ活動の指導者およびリーダーの資質向上と資格取得を目指し、カヌー&スノーケリング講習、NEAL リーダーの資格取得講習会を実施した。本年度の参加者は、3 年生 6 名（カヌー部 5、一般学生 1／男子 4、女子 2）であり、全員が、NEAL リーダーの資格を認定された。

（2）公認スポーツ指導者育成（主担当 榮樂）

競技別指導者資格・指導員・セーリングの認定講習会を開催予定であったが、希望者がなく、開催されなかった。

（3）小型船舶免許取得講習会の開催（主担当：坂口／12 月 17 日開催／参加者：3 名）

小型特殊船舶免許（水上オートバイ）取得講習会海洋スポーツセンター教員 1 名、スタッフ 1 名、外部海洋スポーツ関係者 1 名が受講し、免許を取得した。

（4）高須小学校との合同授業

（主担当 中村／平成 30 年 6 月 1 日、7 日、14 日の金曜日 3・4 時限目）

5 月 11 日に高須小学校教員の事前研修（踏査）が実施された。合同授業は、高須小学校の総合学習の時間と、本学の競技スポーツ論・実習ⅡⅢの授業を合同で実施された。論・実習Ⅲの受講学生が指導案を作成し、指導にあたった。

2. 研究プロジェクト

（1）生涯スポーツとしての SUP（スタンドアップパドルボード）が体力に及ぼす影響

（主担当：中村、海野／平成 30 年 通年）

SUP を対象とした週 1 回の公開講座（6 月～9 月）の参加者（45 歳～71 歳）男女 10 名に対し、講座の前後でバランス能力、等速性脚伸展筋力、速歩の測定を実施した。

（2）カヌースプリント競技における U23 選手の体力に関する研究

（主担当：中村／平成 30 年 通年）

カヌースプリント選手のパワーの評価方法を検討するため、エルゴメータを用いたパワーテストとして、各種メディシンボール投げとカヌーエルゴメータによるパワースコアとの関係を検討した。

(3) セーリング競技における指導者用テキストの作成（主担当：榮樂／平成 30 年 通年）

平成 29 年度に作成したセーリング競技における（レーザー級）指導者用テキストのコンテンツの充実を図った。具体的には、戦術等に関する項目を追加項目として作成した。

3. 社会連携・社会貢献関係プロジェクト

(1) 学長杯オープンヨットレース

（主担当：榮樂、坂口、中村／8 月 26 日(日)開催／参加者のべ 43 名）

学長杯オープンヨットレース前に SUP ファンレースを実施された。また、天候に恵まれ、ヨットレースも予定の 3 レースが滞りなく終了した。

(2) 鹿屋カップヨットレース大会協力

（主担当：榮樂、坂口、中村／8 月 25 日(土)開催／参加者 40 名）

鹿屋海洋スポーツクラブが主催するヨットレースへの運営協力、およびレース終了後の講習会（実技指導等）を実施した。

(3) 公開講座

①公開講座 A：楽しいスキندайビング（初級者編）（主担当：中村）

開催日：5/9、5/16、5/23、5/30、6/6、6/13、6/20（プール 7 回：水曜日 19 時～21 時）
6/24（海 1 回：日曜日 9 時～16 時）

参加者：20 名

屋内実験プールで 7 回のスキندайビング講座を実施した後、1 日の海でのダイビング活動を実施した。

②公開講座 B：楽しいマリンスポーツ（各種マリンスポーツ体験編）（主担当：榮樂）

開催日：4/15、4/22、5/13、5/20（9:00-12:00）、5/27（9:00-16:00）

参加者：16 名

半日講座を 4 回および 1 日講座を 1 回で、計 5 回の講座を企画した。ヨットやカヌーを中心とした活動とし、経験の浅い者が安全で楽しく継続した活動を行うために必要な知識と操船技術を学ぶことを目的とした。

③公開講座 C：「SUP 健康教室」（主担当：中村）

参加者：12 名

開催日：6/27（オリエンテーション・測定）、7/4,11 屋内実験プール使用（19:00～21:00）、海上講座 7/18、7/23、7/30、8/5、8/8、8/15、8/22、9/12、9/19（17:30～19:30）、9/26（最終測定）

毎週水曜日夕方の正味 1 時間程度の健康運動教室を計 11 回実施した。対象者は、SUP 経験のない中高年齢者（45 歳以上）として、前後でバランス測定を実施した。講座は中止・延期なく、全回実施できた。データ収集には、藤田英二准教授、イスラムモハモド モニルル准教授、竹島伸夫教授（朝日大学）に協力いただいた。

④公開講座 D：少年少女海洋スポーツキャンプ（主担当：中村）

開催日：7/24, 25, 26 (2泊3日)

参加者：24名

小学3年生から小学6年生までの児童と、海洋スポーツを専門実技とする本学学生の交流を中心としたキャンププログラムを実施した。宿泊は大隅青少年自然の家を使用した。

(4) 教職免許更新講習会(主担当 中村／平成30年7月30日(月))

バレーボール(午前中)、海洋スポーツ(午後)の時間割で、中学・高等学校教員を対象とした講座を実施した。

(5) マリンフェスタ in かのやへの協力

(主担当：中村、坂口(実行委員会)、榮樂／7月15日(日)開催、)

マリンスポーツ部門におけるイベントの企画・実施・運営を担当した。主な種目は、ヨット、ウィンドサーフィン、カヌー、スタンドアップパドルボード、バナナボートの5種目であり、ヨット部、ウィンドサーフィン部、カヌー部、ボート部学生の協力を得た。エキシビジョンレースとして、オープニングセレモニーでシットオンカヌー、SUPのエキシビジョンレースを実施した。

(6) 大隅青少年自然の家との事業協力(主担当：中村、榮樂、坂口／平成30年 通年)

海浜活動安全対策協議会、「鹿児島・宮崎体験の風を起こそう」実行委員会、施設業務運営専門部会の委員(中村)として協力した。また、「海からのメッセージ」と称した、錦江湾沿岸をカヌーや徒歩で漕破・踏破するプログラムに際し安全管理者として動力船で会場行程を帯同した(坂口)。またマリンフェスタ・マリン部門のカヌー部門において自然の家との協力体制をとり、実施した(坂口、榮樂、中村)。

4. その他

(1) 協力者会議の開催(主担当：中村、榮樂、海野／12月3日(月)開催)

「大隅地域における海洋スポーツの事業展開の充実を目指して ～人材不足を補う連携および運営方策を探る～」というテーマを設定し、外部協力者2名からご講演をいただき、実践的な取り組みについて議論された。

(2) 競技スポーツにおける強化合宿への協力(主担当：榮樂、中村)

国体選手の強化練習および合宿として、ウィンドサーフィン、ヨット、鹿児島県選手の活動を支援した。また、ヨットにおいてはジュニアナショナルチームの強化練習の支援も行った。

(3) 外部団体海洋スポーツ実習の受け入れ

学外スポーツ実習の場として活用できることを条件とし、業務に支障のない範囲で、以下の教育団体の海洋スポーツ実習を受け入れ、実施した。

① 鹿児島南高等学校体育課2年次野外スポーツ実習(海洋スポーツ)(主担当：中村)

開催日：9月20日(木)・21日(金)

SUP、カヌー、ウィンドサーフィンの体験をした。2日目の午前中は、豪雨のため活動を中止し、白水校舎の施設見学を行った。

(3) 施設一時使用許可

鹿屋体育大学海洋スポーツセンター施設一時使用細則に基づく、海洋スポーツセンター施設等の一時使用について、23 団体、延べ 1,500 人に使用許可するとともに、安全な海浜活動のため、10 団体に対して、海洋スポーツセンター教員が活動の指導を実施するとともに、21 団体に対して海洋スポーツセンタースタッフが救助艇操船等の指導補助を行った。

Ⅲ. 決算報告

1. 教育プロジェクト関係

区分	金額	備考
人件費	68 千円	外部有識者招聘
物件費	0 円	
その他	67 千円	外部有識者の交通費
計	135 千円	

2. 研究プロジェクト関係

区分	金額	備考
人件費	0 千円	
物件費	0 千円	
その他	0 千円	
計	0 千円	

3. 社会連携・社会貢献プロジェクト関係

区分	金額	備考
人件費	19 千円	学長杯 学生等アルバイト
物件費	17 千円	トロフィー張替用プレート
その他	0 円	
計	36 千円	

4. その他

区分	金額	備考
人件費	34 千円	協力者会議外部協力者謝金
物件費	1,946 千円	センター管理運営
その他	620 千円	協力者会議等旅費・修理・酸素ボンベレンタルなど
計	2,600 千円	

Ⅳ. その他

1. **発刊物** 海洋スポーツ研究第 24 号

2. **開催会議状況**

協力者会議を平成 30 年 12 月 3 日に開催（事業報告、4 その他―（1）記載）

3. **広報活動**

Facebook を海洋スポーツセンターのアカウントを開設し、授業報告、事業報告、その他海洋スポーツ専門学生の競技状況等を逐次掲載している。

4. **センター利用促進策の成果**

年間のセンター利用者延べ人数は、平成 29 年度 4,860 名に対し、平成 30 年度 5,452 名であった。おおよそ 5,000 名前後の利用者数の推移である。

5. **その他**

特になし。